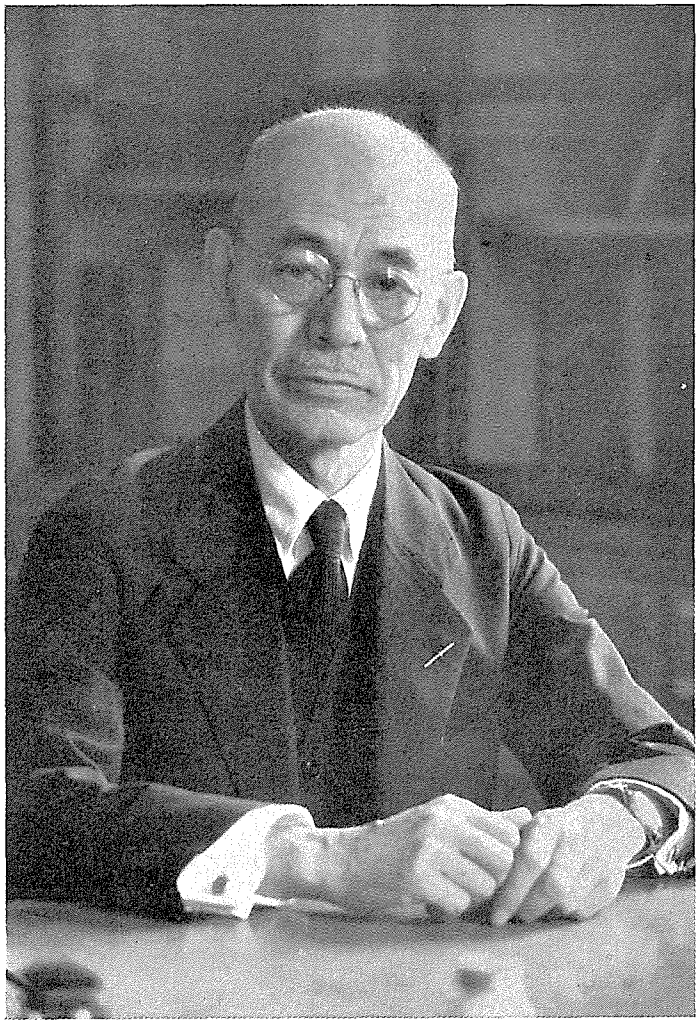
HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	初代所長小熊捍博士
Author(s)	中谷, 宇吉郎
Description	小熊捍の肖像有
Citation	低温科學, 3
Issue Date	1950-12-15
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/17559
Type	other
File Information	003.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP



初代所長　小熊　捍博士

初代所長　小熊捍博士

初代所長小熊捍博士は，明治18年8月24日東京市に生れ，中等教育を東京にて終へ，札幌農科大學の豫科に入學した．年少にして動物學に興味をもち，高等教育を受けるに從つて，廣く學問に對する熱情を深めた．又文化一般に對する憧憬の念も，この時代から漸次高められて行つた．豫科生徒時代に故有島武郎氏と親交があつた點なども，あづかつて力あつたものと思はれる．後年に於ける同博士の高い教養の基礎は，この時代から培はれて來たものであらう．

大學の課程を終へ，當時東北帝國大學農科大學となつてゐた現北海道大學農學部の助手に就任するや，自ら研究分野を求めて，細胞學の基礎部門たる染色體の研究に沒入した．該分野は當時の我が國では，未だ同學諸先輩の注目を惹いてゐなかつた．新進夙に困難なるこの題目を採り上げたことは，同博士の純正科學に對する熱情がしからしめたものであらう．

爾來30年，同博士の染色體に關する研究は，常に斯學の第一線に立ち，文字通りの意味に於て，同方面に於ける世界の一流學者に伍して來た．そのうちでも人類染色體に關する研究が特に著名である．しかし此の方面に於ける業績の紹介は他に讓つて，低溫科學研究所初代所長としての同博士の足跡をたどることにする．

昭和5年4月，當時北海道帝國大學に理學部の新設されるとともに，同博士は理學部動物學科の教授として迎へられた．同教室に於ける研究及び新鋭學徒の指導は7年間に及び，輝かしい業績を殘した．かくて昭和12年9月理學部長に補せられた．理學部長としての同博士の手腕も亦高く評價され，昭和18年に至る迄3度の推擧を受けた．

理學部長時代に偶ゝ本低溫科學研究所設立の議が，大學本部内に起つた．そして同博士が主としてその設立の任に當ることになつた．研究所の性質上理學部が主體となるべきことも一つの理由であつたが，その他に同博士が年來地方の大學はその立地條件に卽した研究を爲すべきであるといふ信念を抱懷されてゐたことも，忘却することは出來ない．

低溫科學研究所の官制が公布されたのは，昭和16年であつて，同博士が初代所長として任命されたのは，偶ゝ太平洋戰爭勃發の日の12月8日であつた．官制の一部は公布されたが，既に大戰爭に沒入してゐた我が國の國情としては，研究所の新設の如きは，その實行が著しく困難であつた．特に低溫室の新設，研究所の建築は遲々として進まず，同博士はその爲に慘憺たる苦心を拂つた．しかしその熱意は遂に當局を動かし，又幸ひにして篤志家の援助を得て，遂に昭和18年9月に及んで，低溫科學研究所の開所式を擧行し得るに到つた．それと同時に

理學部長及び理學部教授の職を辭して，研究所長としての任務に沒頭することになつた．同年2月當時北海道帝國大學に觸媒研究所の新設を見たので，同博士はその所長をも兼任することになつた．

かくて兩研究所の所長として，戰時下の科學研究所長の重責を果し，緊迫せる國情に卽した研究を指導するとともに，純粹科學の法燈をも護り續けた．幸ひにして本研究所は戰災を受けずして終戰を迎へ，終戰後の混亂時をも無事切り拔けて再び科學の研究に戻ることが出來た．かくて本研究所が戰中及び戰後を通じて，我が國に於ける最も困難なる時期を美事に突破し得たのは，所長としての同博士の手腕と學問に對する熱情とに負ふところが多かつたものと思はれる．

今春3月同博士が停年とともに低溫科學研究所長を辭し，新しく財團法人遺傳研究所長（後の國立遺傳學研究所）として北海道大學を離れられるに當り，研究所員一同は，本書を記念として同博士に捧げんとするものである．

昭和23年1月

中谷宇吉郎